



渡邊 靖彦

社団法人東北経済連合会副会長

敗者復活戦に出る資格

昨年秋、バスケットで有名な秋田県能代市で当時のライブドアの堀江社長の講演会があった。主催者からの招待もあったが、興味もあり出席し拝聴した。選挙で敗北したばかりであったが、本人は何食わぬ顔で会場に姿を現した。なにしろ、マスコミはじめ全てのメディアで紹介され、人気、話題とも絶好調であった頃だから、大変な数の聴衆であった。テレビをはじめメディアの力、そして時の勢いというものを改めて痛感させられた。

講演の内容は、会社は株主のものである。会社は利益を出して配当しなければならない。一年位赤字を出すのは仕方ないが、それ以上赤字を出す会社は社会的に不要で退場すべきである。社会的使命とか社会貢献は利益を出してからのお話である。要は株主第一主義と利益最優先ということであろう。

さてあれからまだ半年余、本人は証券取引法違反、粉飾決算などで逮捕され留置場生活を過ごし、罪状否認の仮、先般保釈され、今は裁判の準備中だという。講演にある通り彼には赤字を出すことは耐えられないことであり、いかなる策を弄しても、法に触れても、それは避けねばならなかった事であろう。何のことはない必死の思いで自転車操業をし、株主や世間を欺いていたのである。

どうも最近の風潮として余りに若い人を持ち上げ過大に評価する傾向があるのではないだろうか。確かに若い素晴らしい人もいるし、この仮年を重ねればどんなに素晴らしい人になるだろうかと思う人もいる。

しかし、その前提条件は地に足をつけ努力している人なのか、額に汗して努力しているのかどうかではないのか。決してマンガしか読まず労働もせず、マネーゲームだけしている人ではないはずである。

最近こういう体験をした。一つは羽田行きの飛行機に搭乗した時である。私は一番前の通路側に座った。一つ置いて窓側に三十代の不精髭の男性が座り最初は足を組んでいたが、その内、前のボードに土足を押しつけ、そっくり返り寝ていた。いかにも乱暴、マナーが悪い。後で同乗の友人から県内有数の老舗の若社長と聞き更に驚いた。

今一つは、海外で友人たちとゴルフをした時である。私たちの前3組が遅れてきた上におしゃべりや買物で中々スタートしない。みれば全員借りクラブと借り靴でビギナーらしく二十?三十代の関西弁の日本人である。マナーもルールも知らないらしくバックティから打とうとする。人の迷惑も何も関係ないのであり、この人達もまた傍若無人の輩といわねばなるまい。

この二つの例をみても最近の若い人にはマナーと一般常識に欠ける人達がいる。ライブドアの人々にも柔和な表情と若々しいパフォーマンスの裏に粉飾をし平気で法を破り人を騙す狡猾で黒い欲望が潜んでいたとは、只々がっかりするだけである。

若い人達に申し上げたい。若さとは健康的で清新で進取に富み、潔いものだと思う。そういう若い人達が沢山出てきて欲しいし、そういう人達であれば万が一失敗しても敗者復活戦に出る資格がある。

(秋田県商工会議所連合会会長 わたなべ・やすひこ)